

「和敬清寂」

昨日、作法部の活動に参加させていただいた。作法部は主に茶道を学ぶ活動をしている。場所は1階にある和室。私が入室したときは、生徒がちょうどお茶を点ているときだった。講師として来ていただいているお茶の師匠によばれ、一服いただいた。練習とはいえ、このような茶席でいただくのは、かなり久しぶりだ。静かな空間に、お茶を点てる茶筥の音、一瞬でも、心が静まる瞬間である。

茶道をよく知らない私が話すのはどうかと思うが、茶道というとても作法に厳しい世界と思われている。流派によりいろいろな作法があるとは思いますが、客の立場でいえば、静かな心で、亭主のふるまうお茶をいただく楽しい時間である。

戦国時代に活躍した茶人・千利休の言葉に「和敬清寂」というのがある。その説明として、ネットの記事には次のように書かれている。①「和」はお互いが心を開いて仲良くするということ。茶席では亭主と客が一碗のお茶を介して、一座建立を目指す。茶道とは、和やかな心で調和のとれた空間を作り上げることが大切である。②「敬」はお互いを尊重し敬いあう心。謙虚な気持ちで万物に感謝し、敬う心でお茶をいただくことが大切である。③「清」は清らかということ。道具を清潔にすることはもちろん、目に見えるだけの清らかさではなく、心の中も清らかに。清々しい心で亭主は客をもてなし、客もまたその心でもてなしをうける。④「寂」は何事にも乱されない、動じない心を持ちなさいということ。茶道を通して、不動の精神が育まれ心の大きさが生まれる。茶席に限らず、日頃の生活の中でも大切な4つであり、それを意識して生活すれば、もつと豊かな生活になると思える。

年に1回、2月の第一土曜日に、区内中学校の茶道に関わる部が集まり、連合茶道発表会を開く。今年は、今週末に行われる。コロナ禍の影響で3年間行われておらず、さらに、本校は改築があったため、その間も参加していないので、久しぶりの発表会である。生徒のお点前が楽しみである。

2月2日 校長 鈴木 幸雄

4 □ □

× 3 7

2 9 4 □

□ □ □ □ .

ここに入る数字を求めましょう→ □ □ □ 7 □

◆問題 右のかけ算は3桁の数と17をかけたものです。積はいくつでしょうか。